

3-3 文化

1 歴史・文化の保存継承と情報発信

●基本方針

近世武家文化のシンボルである名古屋城など、歴史上貴重な文化資産を生かし、市民が名古屋に誇りと愛着が持てるようにするとともに、内外に名古屋の魅力を積極的に情報発信します。

歴史、伝統、民俗、行事など地域の魅力的な文化資源の積極的な保存・活用を地域住民とともにすすめ、次世代に継承していきます。

産業技術の中核にふさわしい産業文化の拠点として、ものづくりの技や心を育み、次の時代に伝えます。

●現状と課題

名古屋は、茶道、舞踏などが盛んであるほか、山車からくり、扇子など、ものづくりの技や心が今も受け継がれており、文化的に魅力に満ちたまちです。しかし一方で、「地味」「堅実」「保守的」などのイメージも持たれており、名古屋が持つ文化の魅力が対外的にだけではなく、市民の間においてさえも十分に認識されているとはいえない状況にあります。

そこで、都市の魅力づくりの上でも、名古屋の歴史・文化を一層強く内外に向けて情報発信していくことが必要ですが、とりわけ、名古屋城本丸御殿の復元をできるだけ早く実現できるよう、市民の理解と協力を得ながらすすめていくことが課題となっています。

また、名古屋の歴史の中で蓄積された有形・無形の文化資産を風化させないために、歴史的建築物や史料などの保存・活用をすすめています。名古屋の歴史・文化に対する理解を深めてもらうため、これを市民との協働により行うことも必要です。

●数値目標

	現状値	18 年度目標値	22 年度目標値	所管局
名古屋城本丸御殿復元の理解度	75% (14 年度)	77%	80%	市民経済局
数値目標設定の考え方：名古屋城内やイベント会場などでのアンケートにおいて、本丸御殿の復元を希望する人の割合が 80%以上となることをめざす。				
徳川園（池泉回遊式庭園※1）の年間入園者数	—	50 万人 (17 年度)	30 万人	緑政土木局
数値目標設定の考え方：愛・地球博開催年度は 50 万人、その後定常的に 30 万人の入園者確保をめざす。				
「新修名古屋市史」資料編の刊行巻数	—	3 巻	11 巻	総務局
数値目標設定の考え方：平成 22 年度までに全 11 巻を刊行する。				

※1 池泉回遊式庭園

池泉を中心に配置されているそれぞれがひとまとまりになっている庭空間を順にめぐりながら観賞する庭園様式。桂離宮を代表例とする庭園形式であり、後に江戸時代の大名庭園に広く採用されて、この時代の庭園様式となったもの。

●事業計画

事業名	事業内容	現況（⑮末見込み）	計画目標 [⑯～⑳の事業量等]	所管局
名古屋城本丸御殿の復元	2010 年（平成 22 年）の復元過程の公開をめざし、市民の理解と協力を得ながら、本丸御殿の復元に着手 ・本丸御殿の復元 ・新世紀・名古屋城博の開催 ・障壁画の復元模写	— 基金額累計 1 億 3,200 万円 (14 年度末) — 襖絵および天井板絵制作枚数 244 面 (14 年度末)	基本設計 基金額累計 3 億 8,000 万円 開催 襖絵および天井板絵制作枚数 270 面	市民経済局
名古屋城西南隅櫓の解体修理	創建当時の原型を伝え国重要文化財にも指定されている西南隅櫓を一般公開できるよう解体・改修	—	改修	市民経済局
徳川園の整備	世界に誇りうる歴史文化公園をめざして、徳川園を平成 16 年秋までに整備 ・池泉回遊式庭園の整備 ・蓬左文庫の整備 ・徳川園開園から愛・地球博開催期間中にかけて催事を実施	進捗率 85% 建設 実施計画の作成	開園 開館 催事の実施 (16～17 年度)	緑政土木局 教育委員会
文化のみちづくりの推進	名古屋城から徳川園に至る一帯を「文化のみち」として育み、建築遺産の保存・活用や、道路整備によるネットワーク化を推進 ・旧豊田佐助邸の活用 ・故春田鉄次郎邸の活用 ・旧川上貞奴邸の復元、公開（16 年度開館予定）	貸出・公開 転貸・公開 復元工事	貸出・公開 転貸・公開 完成・公開	住宅都市局、緑政土木局はじめ関係局

	白壁地区において、沿道景観と調和した道路整備を実施	進捗率 77%	完了	
郷土ゆかりの文学資料の保存・展示の場の整備	復元する旧川上貞奴邸の一部を活用し、郷土ゆかりの文学に関する資料の展示の場を整備 ボランティアの協力により、文学資料を収集・整理・保存するとともに展示を企画	展示室などの整備 —	開館 実施	市民経済局
歴史の里の整備	上志段味地区に残る古墳群や河岸段丘などを活用して、郷土の歴史を学ぶ場を整備	—	基本計画の策定	教育委員会
市史（資料編）の編さん	「新修名古屋市史」本文編編さん過程で調査・収集した歴史資料をまとめた「新修名古屋市史 資料編」を編さん・刊行	編さん中	3 巻刊行	総務局
市史資料の公開	「新修名古屋市史」編さん過程でマイクロフィルムに収集した歴史資料を整理し、複製資料により閲覧提供	公開 資料件数 11 件	公開 資料件数 117 件	総務局

2 新たな文化創造・文化活動への支援

●基本方針

文化に関わるさまざまな立場の人々や多様な価値観を持った人々が互いに刺激しあうことにより新たな文化が創造されるよう、人、場所のネットワークづくりをすすめます。

文化を身近なものとして感じ、ふれ、自らも活動できるような機会と場所づくりをすすめる、市民の文化活動を「芸どころ名古屋」と誇ることができるように、より一層支援します。

●現状と課題

多様な文化が相互に刺激しあい、あるいは融合する中で、新たな文化が時代とともに常に芽吹いています。これらの新しい文化についても、名古屋の新しい魅力として、その活動の場の提供や情報発信などの支援により育んでいくことが求められています。

新しい文化の拠点創造するため、芸術と科学の杜の整備を着実に進めていく必要があります。

また、市民の文化活動を振興するため、市民の交響楽団である名古屋フィルハーモニー交響楽団の活動支援などを通じて、市民が優れた芸術文化にふれられるような機会を提供するとともに、市民が自ら行う芸術文化活動を支援したり、文化小劇場を地域文化の拠点としてより一層市民が利用しやすいものにしていく必要があります。

●数値目標

	現状値	18 年度目標値	22 年度目標値	所管局
名古屋フィルハーモニー交響楽団の市民向け公演の回数	111 件 (14 年度)	115 件	115 件	市民経済局
数値目標設定の考え方：名古屋フィルハーモニー交響楽団の活動を通じて、市民文化の一層の向上をめざす。				
文化小劇場（ホール）の利用率	69.3% (14 年度)	72%	75%	市民経済局
数値目標設定の考え方：市民の文化活動の場である文化小劇場の利用率（利用日数/利用可能日数）向上をめざす。				

●事業計画

事業名	事業内容	現況（⑮末見込み）	計画目標 [⑯～⑳の事業量等]	所管局
市民芸術村の構想の推進	実験活用としてのアートポートの実績をふまえ、市民と芸術家、異なる分野の芸術家どうしの交流の促進をめざす芸術・文化活動の場を提供	実験活用（アートポートの開催） 名古屋港ガーデンふ頭東地区の倉庫を活用した市民芸術村の整備のとりやめ	暫定的な活動の場の提供 推進方法の検討	市民経済局

芸術と科学の杜構想の推進	科学館天文館・理工館の改築および美術館新館の整備をすすめる中で、白川公園と一体となった新しい文化の拠点を創造	芸術と科学の杜基本構想の検討	芸術と科学の杜基本構想の策定 科学館天文館・理工館改築の実施設計	教育委員会
名古屋フィルハーモニー交響楽団の活動支援	市民の交響楽団である名古屋フィルハーモニーの演奏活動を支援	支援	支援	市民経済局
市民文化活動への支援	市民が自ら行う文化的活動を支援 ・市民芸術祭の開催 ・芸術文化団体活動助成および文化関係自費出版助成の実施	開催 実施	開催 実施	市民経済局
文化小劇場の整備	市民が身近に利用できる地域の文化活動の拠点として、文化小劇場を整備	設置の検討 (昭和、瑞穂)	設置の検討 (昭和、瑞穂)	市民経済局